

- みずをたぐんけすぎたうきばらは、つちがとろしめていてじめじめしていた。つちがたくなれたかんじだったので、つちがまわりのそだちかたにとてだいいのがぬくとおった。ひまわりのたねをつちに入れてみずをたくさんあそばさずとよもっていたけれど、みずがもうやっとなというんなことをかんがえなくてははいけなとおった。
- つきはつちのいろいろかたり、つちのすたむかえをみてどうすればもっとまわりがやさしにそだっていくのかをけんまうしたい。